

# 「小銅鐸出土地名表」について

2015. 11. 01.

どんたく

今回、袖ヶ浦市の『水神下遺跡発掘調査報告書』の発行（2015年2月）に伴い、水神下小銅鐸に関する記載を報告書にあう形に変更しました。

また、福岡市・今宿五郎江遺跡（2台目）、福岡市・比恵遺跡群、久留米市・高三瀦遺跡 から出土した小銅鐸を追記することとし、このほど漸くその作業を終えることができました。

諸般の事情から、今回をもちまして「小銅鐸出土地名表」の更新作業は、当面休止することとしたいと思っております。

アマチュアの分際で、おこがましくもこのような集成表の作成・更新をおこなって参りましたが、その間、多くの方々からご教示・ご協力を頂戴しました。ここに改めて厚く御礼申し上げます。

\*\*\*\*\*

2008. 09. 12.  
(最終改訂 2011.08.01.)

どんたく

従来色々な形で「小銅鐸出土地名表」が公表されているが、これとは別に、新たに「小銅鐸出土地名表」を作成することを試みた。

2002年に大まかな作業をおこなった後、一時作業を中断していたが、2008年5月に作業を再開した。

一応現段階で表を纏めたので、小銅鐸に関心を持つ方々に自由に利用して戴ければ望外の喜びである。

ただ、まだ検討不十分な点多々あるので、誤りなどご指摘戴ければ幸甚である。

この「小銅鐸地名表」の作成にあたって特に下記のような諸点に配慮した。

## (1) 「小銅鐸」の定義

ここでははっきりした定義はおこなっていないが、おおよそ高さ15cm以下で、従来「小銅鐸」として一般に認められてきているものを取り上げた。

## (2) 3種類の表

「小銅鐸出土地名表」を下記の3種類に分けて表記した。

- I 存在が確かな小銅鐸（所在不明分を含む）  
現在または過去において存在が確実な小銅鐸。
- II 小銅鐸かどうか不明確なもの  
小銅鐸であるかどうか疑問視されているもの。
- III 存在が疑問視されるもの  
過去に公表された「小銅鐸出土地名表」に「小銅鐸」として掲載されているものの、実際には存在が疑問視されるもの。

## (3) 地名の表記方法

近年、いわゆる平成の大合併で市町村の合併がおこなわれ、地名表記が変更されたところがある。ここでは、極力最近の地名表記に従うこととし、旧称は括弧内に記す形とした。

(4) 「松井分類」

袋井市教委・松井一明氏のご了解を得て、同氏の型式分類法に従った分類を表の中に取り入れた。快諾して戴いた松井一明氏に深く感謝の意を表したい。

(5) 関係箇所からのご教示・ご協力

表の内容の正確さを期するために、個々の小銅鐸について、電話・手紙・メールなどで関係者の方々にご教示を頂戴し、その結果を表の形にしたものをもう一度お送りして内容をチェックして戴くなど、可能な限り精度を高める努力をした。

「3教示協力」に、ご教示・ご協力を頂戴した主な関係箇所を記した。

皆様方のご教示・ご協力があったこそ、ここまで纏め上げることができた。

ここにこれら関係各位に厚く御礼申し上げる次第である。